

災害のリスクを伝える

東日本大震災の発生を受けて、道が平成24年に公表した千島海溝沿いを震源とする巨大地震・津波をモデルにした浸水想定をもとに、町は平成25年に「地震・津波ハザードマップ」を作成しました。また、実際に津波や洪水が、自分の住んでいる町をどのように襲うのかをより感じてもらい、早く・安全に避難することを心がけてもらえるよう、令和元年10月にコンピュータ・グラフィックス(CG)で、



災害のシミュレーション結果をコンピュータグラフィックスで再現した「災害シミュレーション映像」。

津波災害のシミュレーション動画を作成しました。

動画は津波編と洪水編があります。想定に基づいた映像と避難行動の留意点が収録されています。DVDの貸し出しやYouTubeで公開していますので、まだご覧になられていない方は、ぜひご覧ください。

災害用大型ドローン導入

町では昨年度、災害時の情報収集などで活用する大型ドローンを導入しました。被災者捜索をはじめ、効率的に被害状況調査を行い、迅速な罹災証明書の発行などを目指しています。

大型ドローンは、風速15メートル程度、氷点下20度から50度の高温にも耐



災害用の大型ドローン

えられ、小雨なら55分、冬期間でも20分以上の飛行が可能です。通常の静止画や動画の撮影に加え、レーザによる測距や被災者捜索にも活用できるサーモグラフィ機能も装備しています。また、デジタルスピーカーを搭載して、上空から呼び掛けを行うこともできます。

災害後の物資の備え

津波指定避難場所に設置しているコンテナには、毛布50枚、寝袋20セット、段ボールベッドが3セット、そのほかに簡易トイレが2基、小型LPガス発電機1基、投光器1基、屋外テント1張、焚火台2台、防寒用アルミシート100枚、カセットボンベストープ1台、ラジオ、携帯電話充電ケーブルなどが収容されています。

このほかに役場庁舎をはじめ、

このほかに役場庁舎をはじめ、庶路学園、茶路小中学校、白糠消防庁舎、旧河原小中学校を防災備蓄拠点として、避難所開設時等に使用する食料や飲料水、備蓄品を納めています。

防災行政無線の整備

いち早く安全に避難するためには、きつかけとなる避難情報が速やかに、かつ確実に伝わるのが大切です。

平成28年から屋外に居る方には津波浸水域内に41基の「拡声スピーカーカー」、令和3年から屋内に居る方には「戸別受信機」で緊急時の情報が伝達できるように整備しました。

緊急情報を確実に受信するため、今一度、ご自宅や事業所の戸別受信機について次の4点をご確認ください。

- ① 乾電池を入れてコンセントにつないでいますか。
- ② 引越しの際「戸別受信機」の返却、交換をしましたか。
- ③ 正午と午後6時の定時放送（オールドゴール曲）は、毎回聞こえていますか。
- ④ 「戸別受信機」正面の液晶画面にエラー表示が出ていませんか。定時放送が聞こえない、エラーメッセージが出ていたりなど、戸別受信機について何かありましたら役場地域防災課へご連絡ください。